

+Affiliated with the International Association
THE Y S MEN S CLUB OF TOKYO HACHIOJI
Chartered October 30, 1994



〒192-0913
東京都八王子市北野台 2-10-4
久保田 貞視
TEL & Fax: 042-636-3317
E-mail: sskubota21@tokyo.yaq.jp

2026年10月

The Service Club of The YMCA

第376号

東京八王子ワイズメンズクラブ

会 長 久保田 貞視
副会長 並木 真
書 記 長谷川 あや子
会 計 稲葉 恵子
直前会長 長谷川 あや子
担当主事 西嶋 健太
プリテン 山本英次 大久保重子
並木 真

国際会長 ヨハン・ヴィルヘルム・エルトビッグ（ノルウェー）主題「ブルーミュージックで眠れる巨人を目覚めさせる」 スローガン「YMI—人生を力づける」
アジア太平洋地域会長 ラチャン・マニカーン（タイ）主題「アジア太平洋地域をブルーミュージックで目覚めさせる」 スローガン「地域社会を力づけ、世代を鼓舞する」
東日本区理事 山下 真（十勝クラブ）主題「挑戦なくして進化なし」
スローガン「響け 挑戦のブルーミュージック」
あずさ部部長 大和田 浩二（松本クラブ）主題「親睦とCS活動を部の原動力として外へ飛び出そう！！」～改革を引継ぎ、さらに発展させる～
八王子クラブ会長 久保田 貞視 主題「脚下照顧で進一層！」
スローガン「ユースと共に地域社会で奉仕活動を！」

2026年10月例会 プログラム

日時: 10月10日(土) 18:00～20:00
会場: 北野事務所 大会議室
担当: C班(久保田、大久保、山本)
受付: 大久保ワイズ
司会: 山本ワイズ
開会点鐘 久保田会長
ワイズソング 一同
ワイズの信条 一同
ゲスト、ビジターの紹介 久保田会長
あずさ部部長挨拶 大和田浩二ワイズ(松本クラブ)
聖書朗読・感謝 並木(信)ワイズ(代読・司会)
卓話者紹介 久保田会長
卓話: 「マレーシア・ペナンでのIYC概況報告」
中央大学ひつじくも 吉川日奈子さん
東京YMCA報告 西嶋ワイズ
報告・連絡事項 会長・各委員
スマイル 大久保ワイズ
ハッピーバースデー 久保田会長
閉会点鐘 久保田会長



今月の卓話者・吉川日奈子さんの参加したIYC

先月の例会ポイント (9月)

在籍	11名	切手	久保田(国内176g 外国32g 計269g)
メン	8名		
メイキャップ	0名		
出席率	80%	現金	0円
メネット	1名	スマイル	8,750円
ゲスト	0名	累計	39,260円
ビジター	0名		
ひつじくも	0名		

今月の聖句 (2026年10月)

イエスはかみ込み、指で地面に何か書いておられた。しかし、彼らがしつこく問い続けるので、イエスは身を起して言われた。「あなたがたの中で罪を犯したことがない者が、まず、この女に石を投げなさい。」そしてまた、身をかみめて地面に書き続けられた。これを聞いた者は、年長者から始まって、一人また一人と立ち去ってゆき、イエス独りと、真ん中にいた女が残った。
(ヨハネによる福音書 8:7-9 聖書協会共同訳)

巻 頭 言

第38回ユースボランティア リーダーズフォーラム報告

第38回YVLF実行委員長 並木 真

9月4日(金)～6日(日) 高尾の森わくわくビレッジで行われた第38回ユースボランティアリーダーズフォーラムが無事終了しました。内容を報告させていただきます。

参加者:ユース28名(10のYMCA)、ワイズ26名(宿泊、日帰り混み)

カウンセラー5名:主幹とちぎYMCA事務局3名、引率1名(横浜YMCA)、ぐんまYMCA池田総主事、日本YMCA同盟太田総主事、田附ワイズ担当主事

基調講演:金迅野牧師

ゲストスピーカー 1日目:日本 YMCA 同盟 横山由里亜さん、ウクライナ避難者ダニールさん、ぐんまYMCAボランティア 齋藤勇弥・春歌夫妻

2日目:横浜市職員 白聖壘(はくせいしろう)さん



今回のYVLFは、テーマをBEYOND "US"

—「私たち」の境界を越える—として「違い」とは何か。「共に生きる」とは何か。それぞれ異なる背景をもつ3組のゲストスピーカーから自身の経験や日常、社会との関わりについての話をお聞きし、参加者一人ひとりが自らの価値観を見つめ直し、金迅野先生が基調講演でそれぞれのスピーカーの思いを紡いで「共に生きる」ことについてお話下さいました。

日本 YMCA 同盟横山由里亜さんからは、受け入れる側の体制と避難者の思いとのギャップを、4年前に日本に来たダニール君は日本語で自分の気持ちを発表してくれました。「自分は避難者であると同時に20歳の青年です。仕

事したいし、友人も欲しい。」

ぐんまYMCAボランティアスタッフの齋藤雄弥さんと奥様の春歌さんの対話形式でお話をして下さいました。

「共に生きるとは。」齋藤雄弥さんは運動が大好きな少年で、日本料理の料理人になりましたが、突然転ぶようになって病院で調べたら脊椎小脳変性症という難病になり、動くことが不自由になってしまいました。しかし、リハビリを頑張り料理は作ることが出来ます。料理を提供して「美味しかった。」と言ってもらえることが嬉しいとおっしゃっていました。「困ったとこに手を差し伸べてもらえると嬉しい。」ともお話されていました。

横浜市職員の白聖壘(はくせいしろう)さんは、15歳で日本に来て最初は言葉がわからず苦労をされたそうです。ご自身の努力で横浜市の職員になりましたが、その思いがあるため現在も外国ルーツの子供たちの学習支援のグループ代表で活動されています。行政の「秩序のある共生社会」10月からの在留外国人の在留手続き手数料の大幅値上げについての話もありました。

最後の金先生の基調講演は、「多文化共生とは何か。」今までの話を受けた講演でした。「出会うということ」横山さんは一本の電話でウクライナ難民と出会ってしまい、その瞬間からその大変さが自分事となった。齋藤さんの料理を通じての共感。白さんが子供たちの痛みを聴くということ。



私は、「多文化共生」とは、出会いとつながりが根底になり、自分事となって共生していけるのではと考えました。

参加したユースたちは、それぞれの講演の合間にグループで話し合いを持ちながら、自分自身への問いを深めていったと思います。また、私たちワイズも話し合いの時を持ち、それぞれ感じたことを分かち合いました。

今回のフォーラムも参加したユースもワイズもともに考えを深めることが出来た、交流を深めることが出来た、素晴らしいフォーラムでした。これもワイズメンバーによる支援金によるものであり、誠に感謝申し上げます。これからも未来を創るユースの成長に寄与できるように、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

ぶどう棚下例会に参加して

花輪宗命

去る9月12日(土)甲州市勝沼「ぶどうの丘」で、甲府21



クラブ主催のぶどう棚下例会が開かれ、八王子クラブからは、久保田会長・メネット、長谷川ワイズ、岡垣さん、花輪ワイズが参加しましたので、ご報告します。

ぶどう棚下例会は、周知のように、この20年来、毎年この時期に、当初は本場勝沼のぶどう園で開催される甲府21クラブの看板行事で、ゲスト・ビジターも含め総勢40名を超える参加者を誇る楽しい例会です。

唯ここ数年は「ぶどうの樹下」と通知されているが実際には『ブドウの丘』で開催されています。

本年は、長い間ぐずついた天候が続いていましたが、当日は、主が、ワイズメンの日頃の奉仕活動を賛美して下さったか、一転して好天に恵まれました。

第一部の例会は、甲府21クラブの藤原琢也書記の司会のもと、荻野清会長の開会点鐘に始まり、通常の例会のプログラムに従って進められましたが、今回の卓話は、パリ外国宣教会のミシェル・ゴーチ神父による「生きるよろこび」と題するお話でした。

ミシェル・ゴーチ神父は、1942年フランスで生まれ、1969年にカトリックの司祭に叙階されてから来日し、日本全国のカトリック教会の主任司祭を歴任するとともに、学校法人静岡聖母学園などの理事長を務められた方で、フランスと日本を跨いで活動してきたご自身の経験を踏まえて、人が幸せに生きるには、身の回りの人との間の壁を友愛(友だちになるといふ楽しみで)打ち破り、「共に生きる喜び」を知ることが一番であるとの趣旨のお話をして下さいました。

第二部は、会場を「ぶどうの丘」バーベキュー・ホールに移して、お楽しみのバーベキュー懇親会となりました。地元



自治体の条例で、乾杯はビールではなく地元産のワインでするように定められているそうで、あずさ部直前部長の山口直樹氏の音頭で、ワイングラスを飲み干して、楽しい例会第二部が始まりました。参加者は、それぞれ会場内の7つのバーベキュー・テーブルを渡り歩いて、他のワイズメンズクラブのメンバーとの交流・懇親を楽しみ、ゴーチ神父のお話の通り、ワイズメンとして「共に生きる喜び」を味わう一時となりました。ぶどう棚下例会の人気の秘密を垣間見る思いがしました。



第22回富士山例会に参加して

久保田貞視

9月26日(土)から27日にかけて富士五湖クラブが主なホストによる富士山例会が富士山5合目の佐藤小屋で開催され、当クラブからは稲葉恵子ワイズと共に参加しました。



この例会は24年前に富士五湖クラブが中心になり東京サンライズクラブ、東京武蔵野多摩クラブが協力してあずさ部でもユニークな行事として発足し、あずさ部各クラブの外にも御殿場クラブ、DBCの京都洛中クラブなど多数のワイズメンが参加しています。今回は22回目ですがコロナの影響で2回は開催を断念したもので24年目になり、富士五湖クラブの主要な行事の一つとなっています。

9月26日はあいにくの雨の中、東京サンライズクラブ、東京ワイドウエストクラブ、京都洛中クラブ、山梨YMCA、甲府クラブ、甲府21クラブ、松本クラブ、伊東クラブ、御殿場クラブ、熱海グローリークラブ、仙台広瀬川クラブと当クラブからの2名も含めて40名余りが参加しました。



第1部の例会では富士五湖クラブ後藤会長の開会点鐘、挨拶に始まり、ゲスト挨拶として、大和田あずさ部部長、小林次期東日本区理事、山梨YMCA中田

によるミニ卓話と続きました。日野ワイズの卓話は彼が東日本大震災の後発足した石巻広域クラブのチャーターメンバーとしてワイズにかかわったこと、ご自分の学校教師として経験、退職後のボランティア活動と共に、大震災で被災した大川小学校の卒業生による被災体験と震災についての作文を参加した若いワイズに読み上げられました。

第2部はBBQと懇親会で本来、佐藤小屋の庭が会場となるが、雨のため屋内で実施されました。乾杯は大谷博愛さん(次期あずさ部部長)で始まり、参加した各クラブのワイズの挨拶と紹介、お楽しみくじに続き、素晴らしい尾崎夫妻のギターによるライブで盛り上がり、ホストクラブ手料理によるご馳走を食べながらの懇親の夕べとなりました。

翌日曜日は早朝の6合目に登ってのご来光仰ぎは曇りのため中止、4人だけで見晴らしの良い所から曇り空に太陽



の光が赤く染まる雲の動き、広大な富士の裾野と鹿の親子等を眺め、全員で朝食となりました。

その後、佐藤小屋を出発、

車でオプションルの船津胎内散策となりました。世界文化遺産「富士山構成資産」である「船津胎内樹型」は富士山に複数存在する溶岩流が太木を囲んで固まり、その樹の型が残った溶岩樹形の一つで、約1,000年前の剣丸尾溶岩



流によってつくられた通称「母の胎内」と「父の胎内」からなり大小数本の樹が折り重なって出来た延長70mに及ぶ複合型溶岩樹型で無戸室浅間神社(胎内神社)となっております。富士講信者はこの胎内樹型の洞窟をくぐった後、富士山登山することになっていました。この狭くて溶岩がごゴツゴツした樹型にみんな頭を溶岩にぶつけながら入洞しました。

その後、いつもの通り、温泉「泉水」に入浴して昼食をとり、富士山駅まで送っていただきました。毎回ですがこの富士山例会では富士五湖クラブのワイズメン・メネットに大変お世話になっています。

ここからは⇒⇒

久保田会長と富士山例会に参加致しました稲葉が追記させていただきます。

私は仙台広瀬川クラブの日野 峻ワイズによるミニ卓話の中で 被災された大川小学校の卒業生のお話が心に残りました。



震災遺構として保存されている「大川小学校正門」↑

既にご存じの方はいらっしゃるかもしれませんが、私は大川小学校の被災されたこの少年の事は知りませんでした。

小学校5年生のときに東日本大震災があり、学校において津波に遭いながら救出され生還した児童4人のお一人です。当時、11歳の少年は震災の渦中の中で祖父、母、妹を失いました。環境が激変する中で被災校舎の保存を訴える活動のほか、語り部の活動も手伝い、高校卒業後、大学は2年で中退し、2022年2月、新しいコミュニティをつくろうと大川小の卒業生らと発足させた「Team 大川 未来を拓くネットワーク」の代表に就任しました。

設立の目的は、若い世代と大人で協力しながら、子供のいのちを真ん中に、今後の大川小学校の保存方法や展示内容、被災の伝承について考えていく事だそうです。現在、22歳になり全国で講演活動や防災・地域づくりの活動行っています。

日野さんの卓話にワイズの神髓を教えて頂きました。クラブ同士のつながりも強く教えてくださいました。

富士山例会の懇親会も日野さんのご活躍で皆さん肩を組み大きな声で歌い本当に楽しい会でした。富士五湖ワイズの皆様には 今年もお世話になりました。ありがとうございました。



第40回インターナショナル チャリティーランに参加！

並木 真

9月26日(土)木場公園で行われた「第40回東京YMCAインターナショナルチャリティーラン」に参加しました。

総勢48チームで、今年の我チームは「八王子・町田 Y'S & FRIENDS」のチーム名で、昨年に引き続き私の高校の同級生の旦那さん西田順也さん、ひつじくも OB 宮内蒼也くん、2年ぶりでの妻、新たに私の高校時代の同級生の真島誉さんに私、また昨年も参加したひつじくも OB 藤原直輝が参加予定でしたが、当日体調不良のLINEが入り不参加、急遽東京 YMCA 社会体育専門学校2年生の西尾翔平君が助っ人として入ってくれました。



また、八王子クラブからは長谷川さん、在京のワイズも合わせて10名くらいはボランティアとして参加していました。

いい人たちの集まりを神様は見ておられるのでしょうか。ずぶぬれ覚悟で着替えをたくさん持っていきましたが、開会式が始まる頃には雨がやみ、雨だったら中止のキッズランも行うことが出来ました。そして、私たちも気持ちよく走ることが出来ました。

順位は27位。私たちチームにとっては上出来です！そして、なんと昨年と同じ順位でした！

閉会式では、上田実行委員長から集まった参加費、寄付金の益金480万円余りを東京YMCA星野太



郎総主事へ贈呈されました。この益金は、障害を持つ子供たちのキャンプやプログラムに使われます。40 年前に1か所から始まったインターナショナルチャリティーランが、今は全国 20 のYMCAで開催されています。ご挨拶で Unleash Potential (アンリーシュポテンシャル) ※金子みどり様がお話されていました「単独、単発でのチャリティーランは増えてきましたが、YMCA のように日本全国規模で 40 年続いているチャリティーランはYMCAだけです。日本でもまだ障害者が当たり前には生きていくには障壁があります。これから先もこのチャリティーランを続けていきましょう。」と。ぜひ来年もランナーとして参加したいです。

最後に、参加費を分担して負担して下さった高尾の森わくわくビレッジと東京町田コスモスクラブ心から感謝申し上げます。ありがとうございました！

※非営利団体 Unleash Potential (アンリーシュポテンシャル)

1958 年に、日本に住み、日本を愛した国際的なビジネスリーダーや大使によって日本 YMCA 同盟と提携して設立されたボランティア組織。慈善イベントを開催し、企業や個人からの寄付を募り、一般の人々を教育することにより、これらのサービスの行き届いていない日本の子どもたちの全体的な成長を促進し、彼らの可能性を引き出すのを助けることを目指している。

高尾の森わくわくヴィレッジの運営と 将来展望



本講義は、東京都八王子市にある社会教育施設「高雄の森わくわくビレッジ」の沿革、運営体制、施設詳細、事業内容、利用状況、そして将来の課題と展望について包括的に説明するものである。元々は都立高陵高校であった施設が、青少年の自立と

社会性発達を支援する体験と交流の場として生まれ変わり、PFI 事業として京王電鉄グループや東京 YMCA などがコンソーシアムを組んで運営している。特に、東京 YMCA の直営体制への移行による活動の幅の広がりや、コロナ禍後の利用者数の回復状況、AI 時代を見据えた施設の役割、企業研修といった新たな利用者層の開拓について詳述。一方で、物価上昇に対応できない料金設定の制約や、季節による施設稼働率の偏り、クマ対策といった安全管理など、運営上の具体的な課題にも触れている。また、子どもたちの創造性を育む居場所事業「VMSTOP WAKU VILLE」の活動や、オリジナルキャラクター「ためきち」の誕生経緯など、

多岐にわたる取り組みが紹介された。

知識ポイント

1. 高尾の森わくわくビレッジの概要と沿革

施設の目的と役割: 東京都の施設であり、青少年(子供から若者)の自立と社会性発達の支援を目的とする。リアルな体験と交流の場を提供し、敷地面積は約 6 万 5000 平米。

施設の沿革: 元々は 1989 年開校の「高陵高校」だったが 2004 年に閉校。2005 年から「高尾の森わくわくビレッジ」として開館した。都の社会教育施設再編により、若者が集団で交流し自己表現できる場として設置された。

2. 運営体制と組織再編

PFI 事業による運営: 東京都の施設を民間が運営する PFI 事業形態。京王ユースプラザ株式会社が都からの委託先。コンソーシアムによる役割分担:



京王電鉄: 全体の管理監督。

東京 YMCA: フロント、予約、活動プログラム企画・販売を担当。

レストラン京王: レストラン運営、食事サービスを担当。

京王設備サービス: 日常的な設備の維持管理。

京王建設: 大規模工事。

月に1度、各社管理職による「運営会議」で情報共有を行う。

東京 YMCA への運営主体変更: 2026 年 4 月より、以前の運営会社「YM サービス株式会社」は休業となり、運営が東



京 YMCA 本体に統合された。全職員が東京 YMCA 所属と

なり、人事交流の活発化や、熊本の被災地支援など東京YMCA 全体の社会貢献活動への参加が可能になった。

3. 施設詳細と利用状況

宿泊室: 最大収容人数 204 人。元高校の教室を改装した和室・洋室があり、団体から個人・家族まで対応。年間平均稼働率は約 70%。

プロジェクトアドベンチャー: チームビルディング目的の大規模アスレチック施設。外部企業に指導を委託。

その他の施設: キャンプファイヤー場(2 か所)、体育室(4 つ、うち 1 つは柔道場)、音楽室(7 室、グランドピアノやバンド機材も設置)、研修室(3 部屋)、旧理科室・物理室(実験イベントで使用)などがある。

利用者数: コロナ禍で減少したが回復し、2024 年実績で宿泊者 3 万 444 人(1,495 団体)、日帰り約 7 万人。学校教



育団体が最多。

稼働率の課題: 宿泊室(約 68%)や体育館(約 69%)は高い一方、野外施設は夏の猛暑の影響で約 10%と低い。また、1～2 月は閑散期となる。

多様な利用事例: スポーツ合宿のほか、近隣住民が葬儀参列者の宿泊に利用したり、企業の経営会議や建築作業員の素泊まりなど、安価でユニークな使われ方もされている。

4. 事業・プログラム内容

活動プログラム体系(100 種): 東京 YMCA スタッフが指導する「指導系」(キャンプファイヤー、カレー作り等)と、利用者が自ら行う「セルフ系」に大別。野外、自然教育、アート



& クラフト、調理、レクリエーションの 5 領域で構成。

居場所事業「VIVISTOP WAKU VILLE」: 「用事がなくてもここにいていい」をコンセプトにしたサードプレイス事業。3D プリンター等を活用したデジタル×ものづくり活動の場で、子どもたちに人気。地域イベントへの出店を通じて収益活動にも挑戦している。

社会課題解決に向けた事業:

外国籍児童・家族支援: 八王子国際協会と連携し、交流イベントを実施。

各種キャンプ: 小学生向け、中高生向け、ひとり親家庭向け、里親家庭向けなど、多様なニーズに応えるキャンプを企画・運営。

ジュニアリーダー育成: 中高生が企画・運営する小学生向けキャンプを実施。

お仕事体験: 障害のある子どもの就労体験として、清掃業務などを提供。

5. 料金設定

料金設定と課題: 東京都との契約(業務要求水準書)により、料金上限と値上げ幅(最大 10%)が定められている。最近 10%の値上げを実施したが、契約期間が 8 年残っており、今後の物価上昇に対応できないことが経営上の大きな課題。公共的サービスとして料金を低く抑える必要性和のジレンマを抱える。

料金例: プログラム参加費は 300 円等と安価。大人の宿泊費は一泊約 4,000 円(食事代別途)。



6. 東京都との契約方針と将来展望

第 3 期契約での方針変化: 2024 年からの第 3 期契約では、業務要求水準書から「生涯学習」の文言が削除され、子ども中心、孤立・不安への対応、ウェルビーイング、居場所づくりがより重視されるようになった。

AI 時代における役割: 予約管理等の業務効率化に AI を活用しつつ、人と人との触れ合いが中心の体験活動は AI で代替できない価値として提供し続ける。リアルな体験の場の重要性は増すと考えている。

企業研修利用の増加: リモートワーク普及の反動で対面コミュニケーションの場として企業研修利用が増加。ホテルより安価で自然に囲まれた環境が評価されている。



7. 安全管理

クマ対策: 近隣での目撃情報を受け、京王電鉄と共同で事業継続計画(BCP)を作成。エリアごとの対応を定め、避難訓練も実施済み。

熱中症対策: 職員向けにテントや冷却パンチョ、経口補水液などの備品を拡充し対策を徹底。2026 年夏は救急搬送事例なし。

ドクターヘリ: 施設の原っぱが離着陸場として利用可能。

8. その他

オリジナルキャラクター「たぬきち」: 子どもに注意書きを優しく伝える目的で、職員のデザインにより誕生。クラウドファンディングで製作した人形を販売している。



高尾わくわくビレッジにて販売する
オリジナルキャラクター「たぬきち」

今月の聖句に寄せて (2026年10月)

イエスをこころよく思っていない律法学者たちが、訴える口実を得るために姦淫の現場で捕らえられた女をイエスの前に連れてきて尋ねます。先生、モーセの律法は、こういう女は石で打ち殺せと命じていますが、あなたはどうか考えますか。イエスを試すためです。「罪の犯したことのないものだけが石を投げなさい。」と、イエスが答えると、誰一人石を投げることなく立ち去りました。そして、イエスは言います。「私もあなたを罪に定めない。行きなさい。これから、もう罪を犯してはいけません。」

聖書は他の箇所でも、「人を裁くな。裁かれないためである。あなたがたは自分の裁く裁きで裁かれ、自分の量る秤で量られる。きょうだいの目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目にある梁に気づかないのか。」とイエスの言葉を伝えます。

私たちには、他人を裁く前にいつも自分を顧みて、石を投げる資格があるかを問いただすことが求められています。私たちは人のミスには気づきやすいのですが、自分のミスにはなかなか気づけないものです。誰かを責めなくなった時ほど自分を見直し、自分を振り返る必要があるということでしょう。

しかし、罪ある自分だからと言って、自分を否定し、自分を憎むことをイエスは求めてはいません。自分を愛するように他の人を愛しなさい、と教えています。自分を正しく愛する、ことを求めています。そして、自分を正しく愛する、その愛をもって、他の人を正しく愛することを求めています。正しく愛するとは、どういうことなのでしょう。自分のいやな部分を取り除いてから、という条件付きではなく自分を受け容れること。思えば、なかなかかみむつかしいことです。私は、この世に二人となく、かけがえのない存在、ということに気づくことがなによりも大切なことでしょう。

YMCAのボランティアリーダー同士で結婚をし、私がその立会人をした、親しい友人の娘さんがこのほど本を出したということです。『「こうあるべき」にさようなら、わたしらしさを忘れてしまったあなたへ』というタイトルだそうです。まだ読んでいないのですが、評判が良いようです。

並木信一



高尾わくわくビレッジ便り

館長 西嶋健太

朝夕の風に涼やかさが混じり、木々の梢も少しずつ秋の色を帯びてまいりました。皆さまにおかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

実りの秋を迎え、当施設には夏の名残を惜しむように、連日多くの学校の皆さまが宿泊や体験学習に訪れてくださっております。元気いっぱい駆け回る子どもたちの声が響き、施設全体が活気に満ちた日々を過ごしております。

振り返りますと、9月はぐずついた雨の日が多く見られました。しかし、ご利用の皆さまの温かなご理解と工夫により、雨の合間を縫って野外炊さんを楽しんだり、屋内の体験プログラムへと柔軟に切り替えたりと、天候に合わせた形で施設を余すところなくご活用いただきました。雨音に包まれながら仲間と協力し合って過ごした時間もまた、子どもたちにとって心に残る貴重な思い出となったことと存じます。

ものづくり拠点「VIVISTOP WAKU VILLE」では、10月に開催される「多摩大橋クリーンフェス」への出店に向け、子どもたちが熱心に準備を進めております。自由な発想を形にしようと、真剣な眼差しで試行錯誤を重ねる姿は頼もしく、当日の成果が今から待ち遠しい限りです。

さて、今年度も上半期が終了いたしました。これまでの歩みを丁寧に振り返り、得られた反省や課題を下半期の運営にしっかりと生かしてまいります。また、未来を見据えた新たな試みとして、若手職員の有志による新規プロジェクトも動き出しました。柔軟な発想と前向きな活力を大切に、皆さまにより親しまれる施設づくりを目指してまいります。

季節の変わり目、どうぞお体を大切にお過ごしください。今後とも変わらぬご支援と温かい見守りを賜りますようお願い申し上げます。



ひつじぐも便り

中央大学総合政策学部国際政策文化学科
3年 霞ひかる

暑さも少しずつ和らぎ、秋の訪れを感じる季節となりました。ひつじぐも委員長の霞ひかるです。夏休みも終わり、大学では秋学期が始まりました。9月は秋の活動や世代交代に向けて準備を進める時期となりました。

9月5日には、イオンモール川口様のご協力のもと、海洋ごみ問題をテーマとしたイベントを開催しました。お昼頃には待ち列ができるほど多くの方にご参加いただき、最終的にお子様やご家族合わせて90名以上の方に参加していただきました。海洋ごみ問題について楽しく学んでいただける機会となり、私たちにとても、身近な環境問題について考えるきっかけとなりました。ご協力いただいたイオンモール川口様をはじめ、ワイズ関係の皆様、参加してくれたメンバーの皆さんに、改めて感謝申し上げます。また、10月18日には、同じくイオンモール川口にて多文化共生イベントを開催します！多くの方に楽しんでいただけるよう、メンバー一同準備を進めています。

9月は私自身にとっても、多くのことを学んだ1か月でした。国際関係を学ぶゼミの合宿で韓国を訪れ、民主化の過程や市民社会について学びました。現地の大学生との交流や、市民団体などへの訪問を通して、実際にその場所へ足を運び、自分の目で見て、人の話を聞くことの大切さを改めて感じました。また、韓国の民主化を支えてきた市民の活動について学ぶ中で、YMCAの活動にも通じるものを感じました。

そして、ひつじぐもは10月に代替わりを迎えます。この一年間、委員長、そしてワイズ係代表として活動する中で、活動を支えてくださった皆様には本当にお世話になりました。多くの方々に支えていただけたからこそ、活動を続けることができました。改めて、この一年間関わってくださった皆様に心より感謝申し上げます。また、一緒に活動してくれたメンバーにもたくさん支えてもらい、多くのことを学ぶことができました。

一年間YMCAに関わる中で出会った皆様への感謝を忘れず、残りの時間も一つひとつの活動を大切にしていきたいと思います。新しい代のひつじぐもも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



東京 YMCA 便り

担当主事 西嶋健太

1. 一般社団法人日本野球機構と公益財団法人日本高等学校野球連盟による「キッズファーストアクション」として、8月31日、キャナルコート保育園にて侍ジャパンU-18選手18名と5歳児19名との交流会を実施した。選手の丁寧な指導のもと、野球あそび体験などを通して体を動かす楽しさを共有した。園児にとって運動やスポーツに触れる体験となっただけでなく、指導する立場となった高校生選手にとっても成長の機会となり、双方にとって意義深い交流となった。
2. 9月1日、「関東大震災第103周年記念追悼合同早天礼拝」を、在日本韓国YMCAと共催で、在日本韓国YMCAで開催し、55名が出席した。金性済牧師（東京韓国YMCA理事、日本キリスト教協議会元総幹事）に「わが口から出る言葉も、むなしくわたしに帰らない」と題してメッセージをいただいた。
3. 9月12日、「2026 災害スタディ」を江東区社会福祉協議会と共催で、東陽町センターで開催し、地域の諸団体や企業、東京YMCA会員・職員等48名が参加した。防災街歩きプログラムや非常食やAED体験、防災スリッパ作り等のワークを通して、多角的な視点から災害について学んだ。
4. 9月26日、「第40回東京YMCAインターナショナル・チャリティーラン2026」が都立木場公園で開催された。当日は、48チーム288人のランナーが参加した。他、子どもたち、ボランティア、スタッフなど合わせて約1,100名が集った。益金は4,816,749円となり、東京YMCAと全国YMCAが行う障がい児支援プログラムのために用いる。なお、40回を記念した全国YMCA一斉オンラインチャリティーウォークを11月29日～12月13日に実施する。
5. 2027年4月、世田谷区のYMCA保育園わがし内に、小学1年生を対象とした新たな放課後児童クラブ「YMCAキッズクラブのぞみ」を開所する。子どもの自主性や安心できる居場所づくりを主軸に、野外活動や国際交流など多様なプログラムを展開予定。
6. 熊本地震被災地支援として八代市の避難所運営支援を継続しており、12月末頃まで交替でスタッフ派遣を行う。9月19日～21日には、阿蘇キャンプにて八代市の小中学生を対象とした第1回リフレッシュキャンプ「あおぞらキャンプ」が実施され、東京YMCAからユースリーダー3名が参加した。

上段へ続く

7. また、10月2日19時より「熊本地震被災地支援活動報告会」をオンラインで開催する。
8. 今後の主な行事予定
 - ・「早天祈禱会」10月1日（山手センター／オンライン）
説教：山口和彦氏（東京YMCA会員部運営委員・東京町田コスモスワイズメンズクラブ）
 - ・「第2回ユニバーサルフェスタ」10月3日、4日（山中湖センター）
 - ・「J.T.スウィフト主事&ミラー主事墓前礼拝」（横浜YMCA共催）10月24日（横浜外国人墓地）
 - ・「第28回愛恵エッセイ」11月13日まで作品募集（愛恵福祉支援財団との共催）
テーマ：豊かな福祉社会を創るために-私たちが今、できること-
 - ・「第24回日本YMCA大会」11月27日～29日（日本YMCA同盟東山荘）
テーマ：Evolving Together
 - ・「YMCA／YWCA合同祈禱週礼拝」11月12日（山手センター）
 - ・「国際協力一斉街頭募金」11月14日 新宿駅周辺
 - ・「賛助会年会・アドバイザー会」11月16日（アルカディア市ヶ谷）
 - ・「全国YMCAオンラインチャリティーウォーク」11月29日～12月13日



中秋の名月（小口ワイズ撮影）

今月の例会報告

2026年9月第一例会・報告

書記 長谷川あや子

【報告】

日時:2026年9月19日(土)18:00~20:00

出席:稲葉、大久保、久保田、久保田メネ、西嶋
長谷川、花輪、望月、山本(9名)

卓話:「高尾の森わくわくビレッジの現状・利用状況」
館長 西嶋健太氏

【予定・報告】

- ・第25回チャリティコンサートの会場は予約済み
 - ・東京YMCAチャリティラン 9月26日(土)
 - ・富士山例会 9月26~27日ー稲葉、久保田
 - ・10月第一例会 10月10日(土)18:00~20:00
卓話「マレーシア・ペナンでのIYCについて」
ひつじくも吉川日奈子さん
 - ・10月第二例会 10月24日(土)ZOOM開催
 - ・11月第一例会 11月14日(土)18:00~20:00
卓話「野鳥の話」(仮題)田中博之ワイズ
 - ・12月クリスマス例会 12月19日(土)15:00
高尾の森わくわくビレッジ音楽室
◎11月中旬には出席者をまとめる。
- ※スマイル 8,750円



9月の誕生祝い 稲葉憲司さん 大久保重子さん

10月の誕生祝い

小口 多津子 さん 10月4日

並木 真 さん 10月20日

ひつじくも 次期ワイズ係代表 からの挨拶

現委員長 霞ひかる

いつも世話になっております。ひつじくもの霞ひかるです。
この度、10月をもちましてワイズ係代表を代替わりすること
となりましたので、ご報告いたします。

次期ワイズ係代表は、経済学部経済学科2年の程大龍君
です。

以下、程君からのご挨拶
です。



経済学部経済学科2年
の程大龍(テイ・ダイリュウ)
と申します。

次期ワイズ係代表を務め
ることになりました。

これまでクリスマス例会な
どの活動に参加し、とても素晴らしい経験ができました。こ
れからは、ワイズの活動にも力を入れていきたいと思ってい
ます。

日本語にはまだ不慣れなところもあり、ご迷惑をおかけする
こともあるかと思いますが、少しでも早く上達できるよう努力
し、精一杯頑張ります。

1年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。

11月以降のご連絡につきましては、程君のアカウント宛に
お願いいたします。

(程君 Email アカウント):(個人情報により削除しました)

私自身、これまでワイズ係代表として活動する中で、ワイズ
の皆様には多くのことを教えていただき、また温かく支えて
いただきました。本当にありがとうございました。残り1か月
ほどとなりますが、最後までどうぞよろしくお願いしま
す。

また、10月第一例会で改めてご挨拶させていただきます。

また、今年度の白門祭については、メンバー内で話し合っ
た結果、参加を見送ることとなりました。来年以降、また機
会があれば参加できたらと思っています。今後ともひつじく
もをどうぞよろしくお願い申し上げます。

ひつじぐもの新体制決まる！

ひつじぐも新委員長 竹内七菜

中央大学国際ボランティアサークルひつじぐもの竹内七菜と申します。

このたびひつじぐもでは、10月をもちまして新体制へと移行いたしました。つきましては、新しい委員長・副委員長より改めてご挨拶を申し上げたく、ご連絡いたしました。

このたびひつじぐもの委員長を務めさせていただくことになりました、文学部社会情報学専攻2年の竹内七菜(たけうち なな)と申します。三重県出身で、大学入学を機に上京いたしました。高校時代は剣道部の部長を務めておりました。ひつじぐものような大規模な組織をまとめることは人生で初めてですので、不慣れな点もございますが、精一杯努めてまいります。何卒よろしくお願い申し上げます

ひつじぐも新副委員長 大橋優佳

ひつじぐもの次期副委員長を務めさせていただきます。

法学部法律学科2年の大橋優佳(おおはし ゆうか)と申します。

中学高校時代は地元の町田市でのびのび育ち、部活動では副部長を務めていました。

至らぬ点多々あるかと存じますが、先輩方が作り上げてくださったこのサークルを、より良いものとするよう精一杯努めてまいります。

よろしくお願いいたします。

前委員長の霞をはじめとする旧体制の間は、温かくご指導とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。新体制におきましても、皆さまとのつながりを大切にしながら、変わらず活動に励んでまいります。

至らぬ点多々あるかと存じますが、どうぞ引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。今後ともひつじぐもをよろしくお願い申し上げます。

「桑都の杜」誕生

JR 八王子駅南口の八王子医療刑務所跡地で整備が進められていた複合施設「八王子駅南口集いの拠点(愛称:桑都の杜)」が2026年10月3日(土)にオープンしました！

長年地域を見守ってきた歴史ある地に誕生する「**桑都の杜**」は、自然豊かな公園、歴史や文化を学べるミュージアム、ゆったり過ごせるライブラリ、そして人々が繋がる交流スペースがひとつになった、八王子の新しいサードプレイス(サードプレイス=自宅や職場・学校以外の居心地の良い第三の場所)です。



桑都の杜 図書館



桑都の杜 オープニングセレモニー

遠藤周作の遺作「深い河」より

By Gemini

遠藤周作の小説『深い河』に関するNHK第2の解説・講義内容の要約です。



第35回毎日芸術賞 受賞作

喪失感をそれぞれに抱え、インドへの旅をともにする人々。生と死、善と悪が共存する混沌とした世界で、生きるもののすべてを受け止め包み込み、母なる河ガンジスは流れていく。本当の愛。それぞれの信じる神。生きること、生かされていることの意味。読む者の心に深く問いかける作品です。

要約

本テキストは、遠藤周作の小説『深い河』を通して、日本人の感性に即した「多層的な霊性」と「宗教のあり方」を考察した解説である。大津のモデルである井上洋二神父との交流や西洋神学との対峙を背景に、作中の象徴的表現や背景思想から作品の本質を提示している。

1.『深い河』の物語と象徴性

- ・ 美津子の内的変容と大津の受容: ヴァーラーナシーでガンジス川に身を沈めた美津子は、他者の悲しみに心を開く「内的降下」を経験する。一方、貧困層の遺体を運ぶ中で重傷を負った大津は「これで、いい」と己の人生を肯定的・主体的に受容し、イエスのような「苦しみと共に歩む神」の姿を体現する。
- ・ 神の象徴と作品構造: 傷つきながら乳を与える「チャムンダー女神像」やイザヤ書の「苦難の僕」は、威厳ではなく人々の悲しみを担う神を象徴する。また、草稿の結末が「死」から「危篤」へ修正されたことで作品は円環的な未完成性を帯び、読者の解釈と参加へ開かれた構造となっている。

2. 宗教の壁を超える思想(宗教多元主義)

- ・ 「玉ねぎ」と「プネーマ」: 大津は神を全包摂的な「大きな命(玉ねぎ)」や、見えない形で働く「風(プネーマ)」に例え、伝統的な概念を超えて捉え直す。
- ・ 宗教多元主義と相互作用: ジョン・ヒックの思想やガンジーの「人間が伝える宗教は不完全である」という謙虚さ、マザー・テレサの「孤独への寄り添い」に共鳴。ビード・グリフィスの「手のひら」の比喩が示すように、異なる宗教同士が離れているからこそ響き合い、補い合う関係性を強調する。

3. 日本的キリスト教の模索と継承

- ・ 「生きること」としての信仰: 遠藤と井上神父は西洋的・理論的な神学に違和感を抱き、「知ること」ではなく日本的風土に即した「生きること」としての信仰を追求した(活動「風の家」などへ発展)。
- ・ 「私」から「私たち」への転換: 遠藤の最期の言葉や地蔵のようなマリア像に象徴されるように、人生のすべて(表も裏も)を受容する姿勢を提示。本作は個の領域(「私」)を超え、他者と連帯する人間本来の原点(「私たち」)へと視点を引き上げる役割を果たしている。

山本英次